2024年度（2025年3月期）

決算補足説明資料

2025年5月15日

ぴあ株式会社

東京証券取引所プライム市場

証券コード：4337

2024年度決算
補足説明資料

[1] 2024年度 業績の概要

1)決算のポイント

2)業績(短信ダイジェスト)

[2] 2025年度 業績予想及び配当予想

[3] 中期経営計画(2023～2025年度)

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた
2024年度の取り組み

1)決算のポイント

①集客エンタテインメント市場は、イベント開催の活発な動きが加速し、大規模会場・大型興行の増加、動員数やチケット単価の上昇により想定を上回り、コロナ禍前を大幅に超える勢いで好況に推移

②音楽、スポーツ、夏フェス等の大型興行の主催、チケット販売の増加、各種ソリューション事業やぴあカード会員の拡大、「ぴあアリーナMM」の堅調な稼働率等を追い風に、取扱高ベースでの売上高は2,700億円規模となり、過去最高

③一方、システム運用費やセキュリティ対応コスト・取引先への外払手数料の増大、資材費や物流費・人件費等の高騰を受け、2006年のチケットぴあサービス利用料の導入以来初めて、昨年10月より一部料金を改訂

④「デジタルメディア・データマーケティング事業」「ホスピタリティ事業(VIP向け高付加価値チケットの販売)」「グローバル・イベント事業(万博等の国際的イベントのチケッティング業務受託等)」など、新規事業への投資成果が表出し、営業利益・経常利益・当期純利益は、いずれも前期を大幅に上回り、過去最高益を更新

2)業績(短信ダイジェスト) ①前年比較

【連結】 前年比較

[単位:百万円]

	前年度	2024年度	前年比
売上高	39,587	45,362	114.6%
営業利益	1,209	2,636	218.0%
経常利益	922	2,378	257.9%
親会社株主に帰属する当期利益	1,118	1,591	142.3%

2)業績(短信ダイジェスト) ②連結損益計算書(要約)

[単位:百万円]

	【前年度】	【2024年度】	【前年度差】
売上高	39,587	45,362	+5,775
売上原価	25,886	28,426	+2,540
差引売上総利益	13,700	16,936	+3,236
販管費	12,490	14,300	+1,810
営業利益	1,209	2,636	+1,427
営業外収益	175	250	+75
営業外費用	462	508	+46
経常利益	922	2,378	+1,456
特別利益	146	–	–
特別損失	173	469	+296
税金等調整前当期純利益	895	1,908	+1,013
法人税等合計及び非支配株主利益	△219	317	+536
親会社株主に帰属する当期純利益	1,118	1,591	+473
包括利益	1,122	1,568	+446

2)業績(短信ダイジェスト) ③連結貸借対照表(要約)

[単位:百万円]

資産の部	【前年度】	【2024年度】
現預金	33,919	46,301
売掛金	28,817	27,774
商品等	91	119
その他	3,987	5,468
	流動資産：前年度比12,848増加	
流動資産	66,814	79,662
有形固定	12,212	11,634
無形固定	5,914	5,951
投資その他	5,329	4,901
	固定資産：前年度比969減少	
固定資産	23,456	22,487
資産合計	90,271	102,150

負債の部	【前年度】	【2024年度】
	流動負債：前年度比11,171増加	
流動負債	65,094	76,265
固定負債	19,632	18,645
負債合計	84,726	94,910
純資産の部		
資本金	6,444	6,468
資本剰余金	2,610	2,634
利益剰余金	△2,465	△874
自己株式	△1,063	△987
他包括利益	18	△5
非支配株主持分	-	3
純資産合計	5,544	7,239
負債純資産合計	90,271	102,150

2)業績(短信ダイジェスト)
④連結キャッシュフロー計算書(要約)

[単位:百万円]

	【前年】	【2024年度】	【前年度比】
税引き前当期利益	895	1,908	+1,013
減価償却費	2,497	2,657	+160
売上債権の増減	△7,204	1,044	+8,248
仕入債務の増減	14,320	5,513	△8,807
その他	1,987	4,654	+2,667
利息・税金等	△120	△440	△320
営業キャッシュ・フロー	12,375	15,336	+2,961
無形固定資産の取得	△1,456	△1,757	△301
その他	△760	△175	+585
投資キャッシュ・フロー	△2,216	△1,932	+284
財務キャッシュ・フロー	△2,596	△1,022	+1,574
キャッシュの増減	7,563	12,381	+4,818

[2] 2025年度 業績予想及び配当予想

・2025度(2026年3月期)の当社業績は、売上高470億円、営業利益34億円、経常利益32億円、当期純利益23億円を想定。当初目標を大きく上回る形で、中期経営計画も達成の見込み

・2024年度は、期初想定を大幅に上回る業績を達成したものの、コロナ禍の影響による多額の累損の解消までには至らず、誠に遺憾ながら当期の配当については無配とさせて頂かざるをえない状況も、2025年度中の累損一掃と復配の実現を目指す。次期配当予想は、現時点では１株当たり10円とする

・利益配分については、2017年度より、「配当政策」「自己株式の取得」「株主優待」の総還元性向40%を目安とし、連結での配当性向は、同じく30%を目安に設定している

[3] 中期経営計画(2023～2025年度)

①中期経営計画の2年目である2024年度は、基幹事業であるチケッティング事業、興行の企画主催事業、ホール・アリーナの運営事業の拡大に加え、周辺領域のメディアコンテンツ事業や「ぴあカード」会員事業も利益幅を拡大

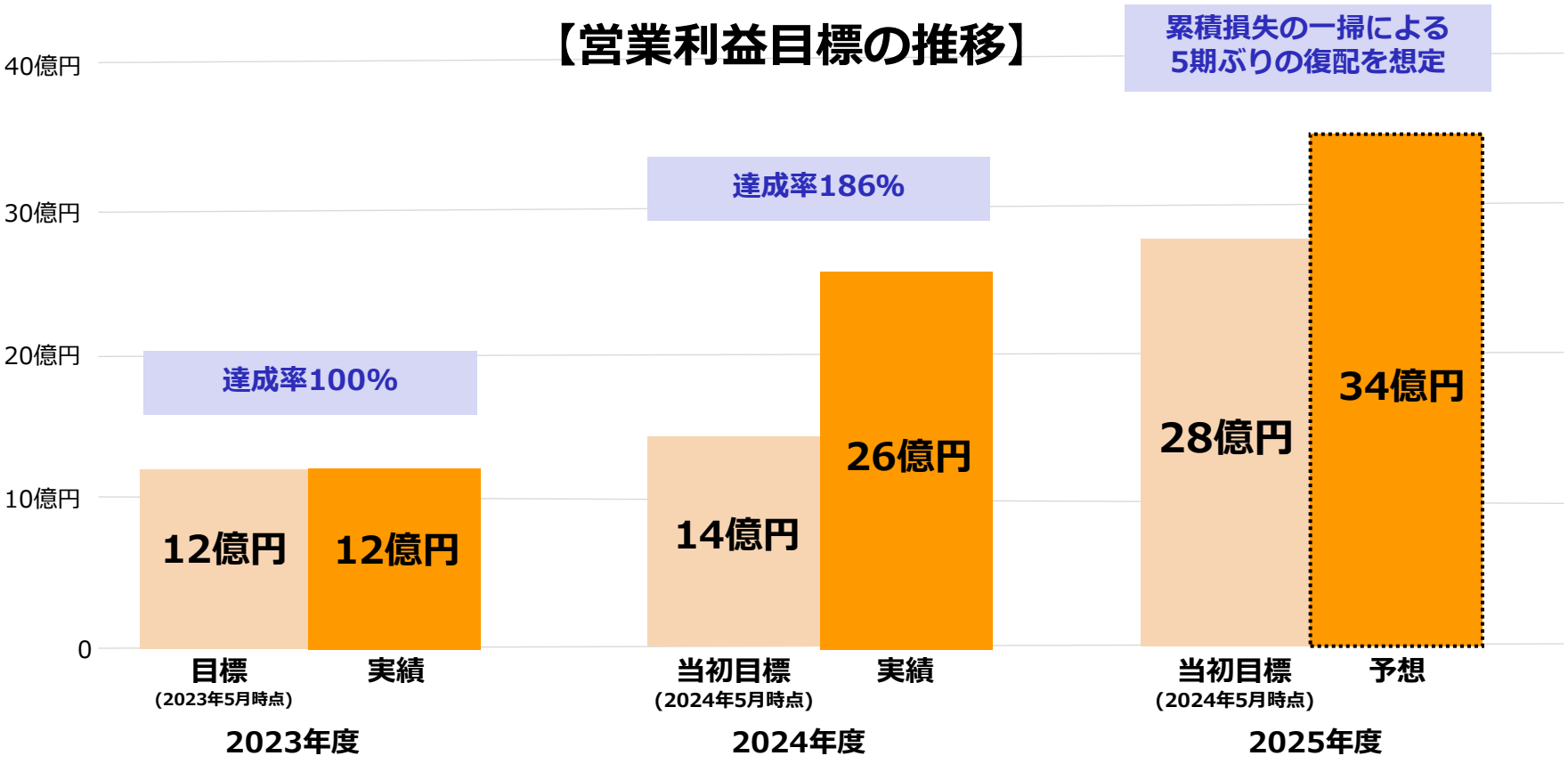
②集客エンタメ市場の活発な動きが加速し、イベントのチケット販売が好調に推移。さらに「デジタルメディア・データマーケティング事業」「ホスピタリティ事業」「グローバル・イベント事業」等の新規事業への投資効果が現れ始めたことで、2024年度は当初予測を上回る形で過去最高益。中期経営計画も達成の見通し

③興行の企画主催事業やヴェニュー事業、カード会員事業等の拡大により、従来のチケット販売に依存した事業基盤からの脱却を図るとともに、新規事業・サービスの収益化を進め、その後の持続的成長が可能な事業構造への変身を実現する

④「感動のライフラインの構築」を目標に据え、総合エンタメ企業としてのブランディングを進める。同時に、従業員の給与アップ、やりがいの向上や働き方改革を進め、コミュニティの活性化と生産性向上を図ることで、企業価値の最大化を目指す

[3] 中期経営計画(2023～2025年度)

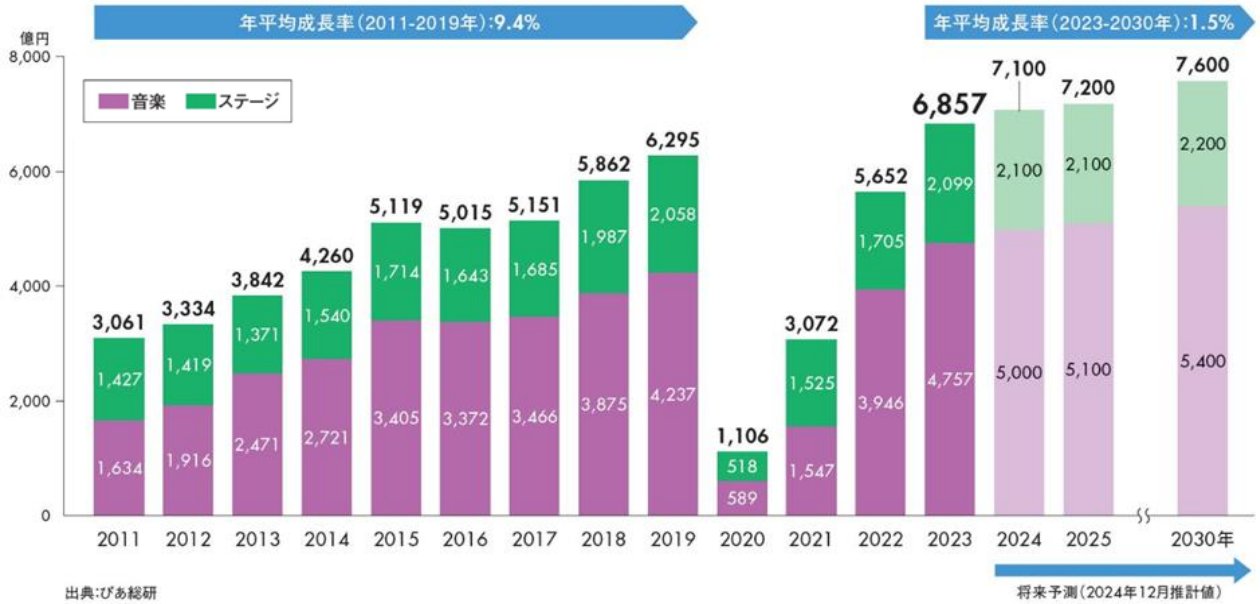
3ヶ年の中期経営計画2年目(2024年度)の業績は、当初目標を大きく上回る達成。これを受け2025年度は、基幹事業の強化と周辺ビジネスの拡大、新規事業のビジネスモデルの定着と収益拡大により、コロナ禍による累積赤字の完全解消と、5期ぶりの配当再開を見込む



[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み

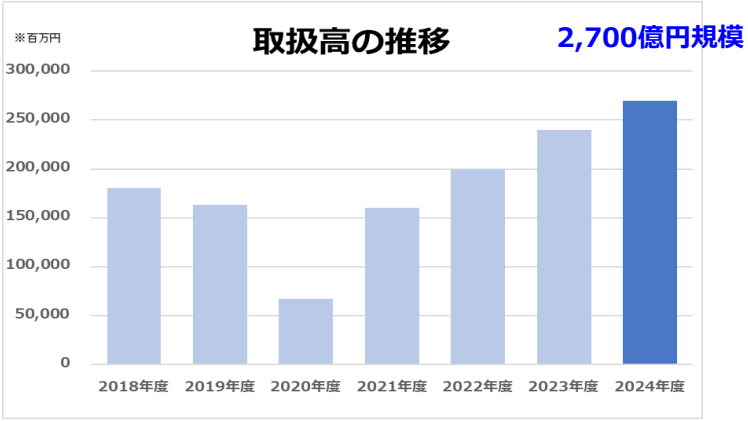
※参考資料

▶ライブ・エンタテインメント市場将来予測(ぴあ総研)



コロナ禍から4年を経て、集客エンタメ市場はV字回復を遂げ、その市場規模は2024年には7,000億円を超える見通し(現在集計中)。大規模イベントの増加と平均単価の上昇を追い風に、この傾向は今後しばらく続くとみられ、2030年時点の市場規模は約7,600億円に達するものと試算している。

▶取扱高はコロナ禍前を上回り、2,700億円と過去最高を更新中



▶チケットぴあの登録会員数：約2,200万人

▶年間のチケット発券枚数：約8,500万枚

▶全国の発券ネットワーク：約38,000ヶ所

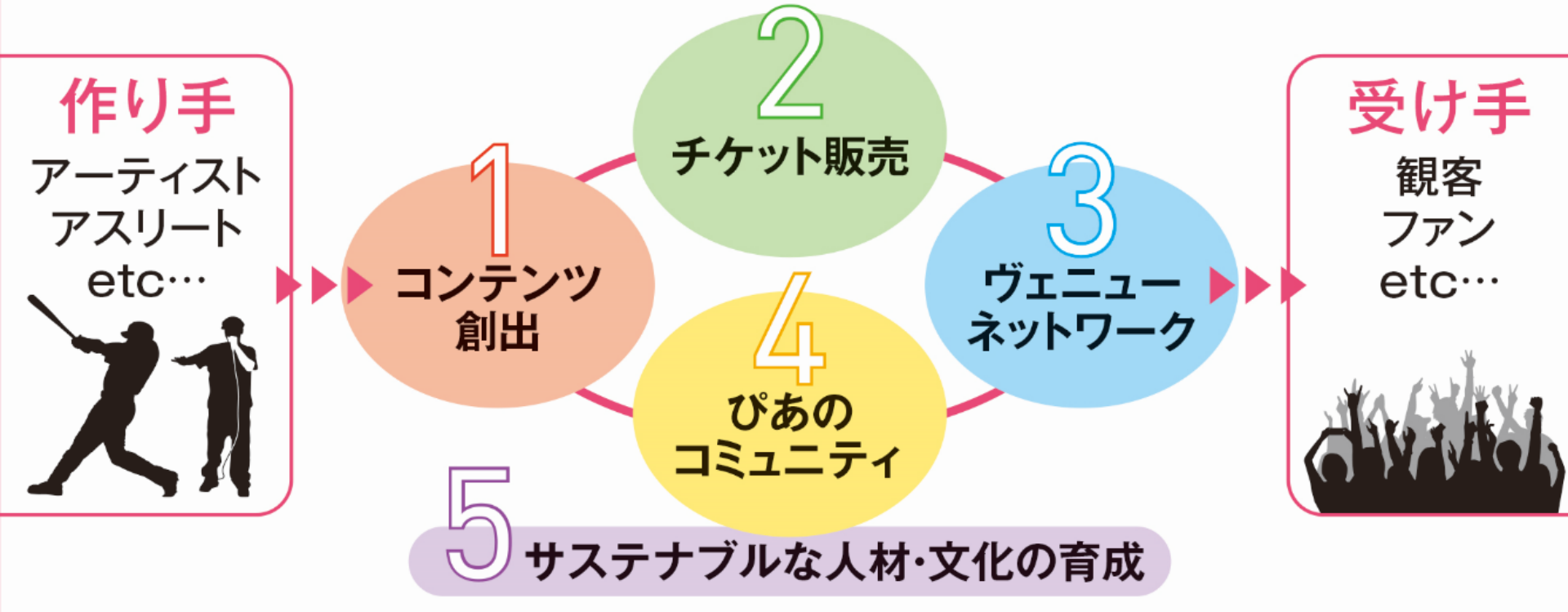
▶取引先：約45,000社／取扱い興行数：約160,000件

▶ソリューション提供先：約250社

大手興行元/主要ホール劇場/テレビ局/プロスポーツ団体(野球・サッカー・相撲etc)/プロスポーツチーム/劇団/プロダクション/等

“感動のライフライン”事業の基本フレーム

集客エンタテインメントによる感動は、ひとりひとりが毎日を生き生きと暮らすための、いわば“酸素”のようなものである、との考えのもとに、その作り手と受け手、生み出す側と楽しむ側を一気通貫に結ぶ、21世紀の「感動のライフライン」の構築を当社のビジョンに据える



コンテンツ創出、チケット販売、ヴェニューネットワーク、コミュニティ、の4つの要素で、エンタテインメントの作り手と受け手を繋ぎ、集客エンタテインメント業界のサステナブルな発展を目指す

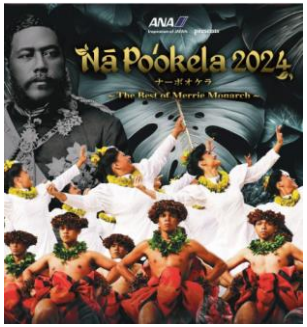
(1)コンテンツ創出～イベント・フェス～

国際的な音楽フェスから地域密着型の企画、ライフスタイルを彩るイベントまで、計600本を超える興行・イベントを企画、主催、運営

PIA MUSIC COMPLEX 2024　-ぴあフェス-

今年度のぴあフェスは、ぴあアリーナMMでの開催に加えて、「音楽のまち」作りを進める横浜市が初開催した「Live！横浜」と連動し、街中を巻き込んだ地域イベントとして企画

全国のパンを特集した出版物との連動からスタートした「パンのフェス」2025 in 横浜赤レンガ の来場者数は16万人超え



最大級のフラダンスコンテスト「メリーモナークフェスティバル」入賞者による「ナーポオケラ2024」

約100万人を動員する都心で唯一、最大の「神宮外苑花火大会」を毎年主催

スポーツの聖地で開催した第3回「国立競技場ENJOYリレーマラソン」には約4千人が参加

KPOP最大級の音楽祭「2024 MUSIC BANK GLOBAL FESTIVAL in JAPAN」

世界三大ジャズフェスの一つ「MJF(モントルー・ジャズ・フェスティバル)」を初めて日本に招聘

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み
(1)コンテンツ創出～メディアプロモーション～

新たな切り口の創出や、異業種アライアンスによる、メディア商品の多角化を実現

発行部数
65万部

万博公式ライセンス商品。
“いちばん早い万博ガイド本”
が早くも大ヒット

シリーズ累計
46万部

癒しの「森カフェ」を紹
介する人気シリーズ。日
本全国のエリアで展開中

10エリア
で発行

自治体・関連企業・団体
などとタッグを組み、
全国10の地域で発行

異例の10刷
13万部発行

ミセス初の公式本。発行
から2年近く重版を重ね、
異例のロングセラーヒット

アプリ版「ぴあ」の進化

情報誌『ぴあ』のコンセプトを引き継ぎ、エンタメとの“偶然の出会いと発見”を提供する「アプリ版ぴあ」は、スタートから6年半で“ぴあニスト(アプリ会員)”登録者数が約165万人を突破、WEB版も展開。「パーソナライズ」をテーマに、株主様には無料でお楽しみいただける有料会員向けの特典・サービスも拡充

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み

(1)コンテンツ創出～地域・企業連携～

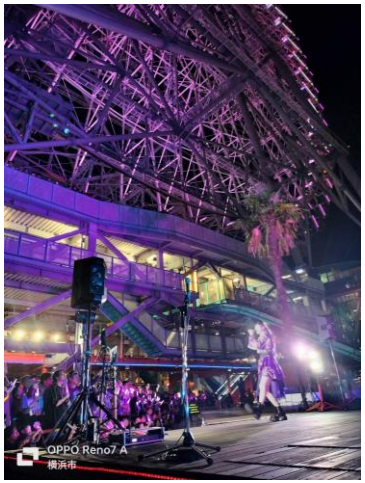
CCCと、ライフスタイル提案型のイベントで連携をスタート

エンタメ領域のサービス拡大を目指して、カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)と協業。同社のスペースを活かしたイベント事業などを共同展開する。第1弾「おやつ市場」(二子玉川)は大盛況で、今後も定期的に開催予定

北海道でもイベント創出で街づくりを推進

札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を結び、エンタメイベントを活用した人流創出や札幌の魅力発信、プロスポーツチームの試合への市民の無料招待など、コンテンツ開発で連携していく

横浜市と連携し、横浜を"音楽のまち"へ



▲横浜市主催「Live!横浜」では、JR桜木町駅前他3つのサテライトステージのプロデュースをぴあが担当

▲開催4回目のぴあプロデュース「YOKOHAMA MUSIC HARBOR」では、「Live!横浜」と連携。写真は、公式アンバサダーであるももいろクローバーZ・高橋れにさんによるフリーライブ風景

スマホアプリ"ユニタビ"(ぴあ開発・運営)は、イベントで街の経済を活性化

サッカー観戦を目的にスタジアムを訪れる県外からの観戦者に対し、観光や飲食情報を提供。コンテンツを生かしてスタジアムエリアから市内各所への回遊を促し、地域経済の活性化につなげる

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み

(2)チケット販売~国際的なソリューション~

「東京2025世界陸上」(9月開催)のオフィシャルサポーターとして、チケッティング業務全般を受託

WORLD ATHLETICS CHAMPIONSHIPS TOKYO 25
OFFICIAL EVENT SUPPORTER

チケットは昨年8月より先行販売開始。オリンピック選手の活躍を受け、観戦チケット計約70万枚のうち、すでに約32万枚を販売

大阪・関西万博のチケッティング業務を全面的に受託 入場券販売をスタート

EXPO 簡単入場 チケット Quick

各種入場券を発売中。開催直前からは、ぴあの仕組みを活用した簡単チケット「EXPO Quick（エキスポクイック）」もスタート

JALと業務提携

JAPAN AIRLINES

PFF入選作の機内上映に加え、マイレージによるホスピタリティプログラムやイベントチケットの交換を拡充。顧客のエンタテインメント体験を促進

新規事業の「ホスピタリティチケット販売」も順次収益化、各種イベントが好評

欧米では広く普及している、ワンランク上の感動体験を提供する「ホスピタリティプログラムチケット」。本格始動した2024年度は多数の興行で黒字化を達成。様々な限定企画や特典をパッケージし、エンタメ鑑賞の付加価値を高めるとともに、市場の拡大とサステナビリティ強化を図る

ピッチでの練習見学の様子
ラグビー日本代表vsオールブラックス(国立競技場)

試合終了直後、コート内にて記念撮影
ジャパンオープンテニス(有明コロシアム)

ラウンジ内にて出演者やスタッフと交流
バレエ「ジゼル」(新国立劇場)

(3)ヴェニューネットワーク

日本初の民設民営の大規模アリーナ「ぴあアリーナMM」や、ライブハウス「豊洲PIT」「仙台PIT」に続き、新たなエンタメ拠点「八重洲 新劇場・カンファレンスホール(仮)」の運営も

ぴあアリーナMM(横浜・みなとみらい)は、コンサートに最適化した会場で人気が高く、週末は1年半先まで予約が埋まる状況

東京駅八重洲中央口前「TOFROM YAESU TOWER」内にぴあ運営の劇場・カンファレンス施設が開業予定

劇場客席(約800名収容)のイメージ

豊洲PIT(東京)

仙台PIT(宮城)

TOFROM YAESU TOWER
外観のイメージ

カンファレンスホール
のイメージ

(4)ぴあのコミュニティ

“感動のライフライン”を繋ぐぴあのコミュニティ

①チケットぴあ

集客エンタテインメント市場のプラットフォームを構築する、日本最大のチケットエージェント。チケットぴあの登録会員「ぴあ会員」数：約2,200万人、取引先：約45,000社／ソリューション提供先：約250社

②ぴあカード

チケットの先行販売や当選率アップの特典、各種割引サービスの適用など、エンタテインメントファンの活動をバックアップする、ぴあならではのカードサービス。三菱UFJニコス社、JCB社のブランドで、会員数は現在約35万人

③アプリ版ぴあ

スタート以来5年で、“ぴあニスト(アプリ会員)”登録者数が約165万人、「ぴあアプリ/WEB」も展開中。ぴあの会員はいずれも、コミュニティ意識を持つ方々が集まる

④PANX(ぴあ朝日ネクストスコープ)

朝日新聞との協業によって設立した「ぴあ朝日ネクストスコープ」は、双方の強みを生かした広告商品を多角化

(5)サステナブルな人材・文化の育成　～ぴあ総研～

ぴあ総研による産業と文化の育成「シンポジウムを通じた地域創生」

2022年より、「集客エンタメ産業の未来に向けた、社会的意義と本質的価値」について提言。今年度は、「文化芸術とエンタテインメントとの間に境界はあるのか？」という問いを出発点に、文化・エンタメ・スポーツの持続的な発展の在り方、さらには社会課題の解決におけるこれらの分野の可能性について、多角的な議論を展開する。6/23(月)に、京都・龍谷大学にて開催予定(要・事前申し込み)

【SDGs 18番目の目標】
ぴあグループでは、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の「文化」的活動を強化・支援することを提言

昨年のパネルディスカッションでは杉浦久弘氏、野田秀樹氏、亀田誠治氏、小川理子氏が登壇。岡田武史氏、山中竹春氏(横浜市長)の基調講演も行われた

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み
(5)サステナブルな人材・文化の育成　～ぴあ総研～

国内唯一のライブ・エンタメ動向を網羅した白書を毎年発行
TV・新聞など各種メディアで、年間100件以上引用

この統計調査データは、音楽、演劇をはじめとする様々な分野で活用されており、昨年度は100件以上のメディアに取り上げられるまでに。
ライブ・エンタテインメント領域の市場動向を世の中に発信していくことで、当該分野の社会的意義の向上、さらには産業の活性化という社会貢献につながっていると考えている

大阪・関西万博「世界遊び・学びサミット」に参画し、エンタメが創る新しい価値を提言

世界
遊び・学び
サミット

EXPO メッセ「 WASSE 」

大阪・関西万博 シグネチャーイベントの「世界遊び・学びサミット」は、様々な団体が国や立場、世代を超えて未来の遊びや学びについて多角的に語り表現し合う場。当社は、「遊びと学びの交差点：エンタメが創る新しい価値」をテーマに、未来の教育や社会におけるエンタメの役割を共に考える対話型プログラムを8月10日、「世界遊び・学びサミット」内にて実施する。（会場：EXPOメッセ「WASSE」）

東京藝大と共に、次世代の文化価値創出へ

台東区・上野の東京藝術大学構内にある奏楽堂

東京藝術大学の教育・研究機関としての強みと、ぴあグループの持つエンタテインメント分野のノウハウや資源などを生かし、文化芸術の観客の体験価値向上、そしてWell-beingの深化を目指す

龍谷大学と連携し、エンタメで共生社会を推進

3/15に行われた締結式にて。
左より、入澤崇学長、吉澤保幸

龍谷大学と、「文化・芸術・エンタメ・スポーツ等を通じたウェルビーイングの追求および共生社会の実現」を目的とした講義や社会的課題をテーマとしたプロジェクト型授業などへの参画を通じて、次世代を担う人材の育成を共に推進

(5)サステナブルな人材・文化の育成

PFF(ぴあフィルムフェスティバル)創業来の文化の育成、人材の支援

第46回ぴあフィルムフェスティバル「PFFアワード2024」表彰式での受賞者と審査員

「大島渚賞(第6回)」では、世界へ羽ばたこうとする若い才能を顕彰

「PFFアワード2025」応募数は史上2番目の795本

「出品料無料化」が功を奏し、10代の応募は1.5倍に増加

JAL機内でPFFアワード受賞作を上映中

JAL
JAPAN AIRLINES
PFF
PIA FILM FESTIVAL

日本航空とPFFが連携。空の旅での「映画の新しい才能の発見と育成」をテーマに、国際線＆国内線で、PFFアワード受賞作を上映中

「ぴあ落語ざんまい」、全国の電子図書館サービス(414自治体・1,343館で導入)への提供をスタート

本サービスは約7,170 万人の利用が可能となっていて、この取り組みを通じて、幅広い皆様に向けた落語文化の発信、オンラインサービスならではの落語体験の機会創出を目指す

ぴあ独自のスポーツビジネスプログラムを開講中。スポーツ業界での人材育成を推進

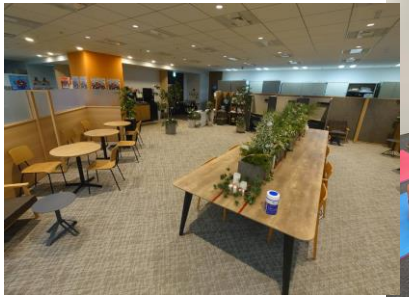
国際的なイベントや、スポーツ団体のオフィシャルパートナー受託を通じて培ったノウハウを生かし、「ぴあスポーツビジネスプログラム」の第5期を開講中(4月～)。スポーツビジネス業界で即戦力として活躍するためのノウハウを教育し、人材育成に取り組む

[4] 感動のライフライン事業の構築に向けた2024年度の取り組み

(5)サステナブルな人材・文化の育成

働き方にも“ぴあらしさ”を

職場環境の改善も含め、やりがいの向上や働き方の改革を推進中。また従業員のエンタメ鑑賞や、公認クラブ活動への補助金も支給し、生き生きとした生活を支援する



札幌に開発拠点を設置・エンジニア職(正社員)の採用を開始

PIATECH LAB

エンジニアのために、出身地や首都圏以外の地域でも働くことができる拠点を作り、Iターン・Uターンを含めた雇用を創出。デジタル化の需要が増える中で開発速度を上げ、ノウハウを社内に蓄積

パラ・デフアスリート採用をスタート

昨年度よりパラ・デフアスリートを新規採用。アスリートとしての競技活動や広報活動などを行っている。ぴあは多様性を尊重し、ひとりひとりの力が発揮できる環境づくりを進めていく

▲2025年2月～3月に計5名が入社

5月のデフ陸上日本選手権男子200mで当社所属の山田真樹選手が優勝

能登災害の復興のために、300万円を寄付

能登災害の復興支援として、義援金チケットの販売や株主優待を利用した募金活動を実施。その結果、2025年3月31日時点で集まった義援金930,858円と、ぴあグループからも300万円を寄付。今後も「エンタテインメントによる心の復興支援」を目指し、募金活動は継続していく